

株式会社インディー・メディカルを子会社化 (PJT コード: A2-3)
～ 新治療デバイスにより医療機器事業が皮膚・形成・救急領域に進出 ～

エムスリー株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：谷村 格、URL：<https://corporate.m3.com/>、以下「エムスリー」）は、当社子会社であるコスモテック株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役：武居清志、URL：<https://cosmotec.com/>、以下「コスモテック」）を通じ、「M3 先端医療戦略」の一環として株式会社インディー・メディカル（本社：東京都中央区、代表取締役：嶋内 明彦、URL：<http://www.indee-medical.com/>、以下「インディー・メディカル」）の全発行済株式を取得したことをお知らせいたします。

エムスリーは、医療従事者専門サイト「m3.com」を運営しており、国内27万人以上の医師会員に対し医学関連情報を配信し、製薬業界を中心にマーケティング支援サービスや治験支援サービス等を提供しております。また、日本のみならず米国、英国、フランス、中国、韓国、インドなど海外への事業展開を積極的に進めており、全世界で450万人以上の医師会員・調査パネルを有し、そのメディア力を活かした製薬会社向けマーケティング支援サービス、調査サービス、医師転職支援サービス等を展開しています。

インディー・メディカルは、Avita Medical Limited (カリフォルニア州、豪 ASX/米 OTCQX 上場、以下「Avita」) の熱傷等治療機器「ReCell」に関する日本での独占開発・販売権を有する2016年設立のバイオベンチャーです。

ReCell は患者から採取した皮膚から非培養細胞懸濁液を作成し（組織培養は不要）、それを患部に対しスプレーすることで熱傷や創傷部の再生を促進させる技術です。米国（FDA）/ 欧州（EMA）/ 中国（SFDA）等33か国で承認取得済みであり、50本以上の学術論文や7,000例以上の臨床実績等の豊富なエビデンスを有しています。また、2002年のバリ島テロ事件、2015年の台湾八仙水上楽園爆発事故で、多くの患者の命を救ったことで話題になった製品で、米国においてもHHS(Health & Human Services)傘下のBARDA(Biomedical Advanced Research & Development Authority)から大規模災害対策備蓄プログラムとして、Avitaが総額US\$80Mの契約受注する等、注目されています。

世界的に見てこれまでにない新しい方式の技術で、米国では18歳以上の急性熱傷、欧州では熱傷のほか急性および慢性の創傷や白斑・瘢痕といった範囲でも承認されていることから、日本国内の関連学会等でも注目を集めており、2020年を目途としたPMDA承認取得を目指し、現在承認申請中です。承認後は、コスモテックの全国をカバーする販売リソースやエムスリーグループのデジタルマーケティングのリソース等を活用し、積極的に販売を推進します。

<ReCell を利用する様子（左）と、ReCell を噴霧する様子（右）>



出所：インディー・メディカル作成

<ReCell の主な特徴（海外承認資料より）>

- ① 細胞懸濁液：30分～1時間程度で作成可能
- ② 治療範囲：採皮部の80倍の面積に拡大適用可能
- ③ その他：他の治療法との併用が可能

※2019年2月28日現在、日本国内で本製品は未承認のものです。（承認申請中）

<第3の成長レバー：先端医療戦略>

エムスリーでは先端医療分野への取り組みを「インターネットサービス」、「e×リアルオペレーション」に続く第3の成長レバーと位置づけています。本取組により、エムスリーは、第3の成長レバーの医療機器領域での事業展開を加速させます。

